

#ここから! キャリアのヒント

日本女性学習財団では、女性のエンパワーメントをめざし、生涯にわたるキャリアデザインを男女共同参画の視点で支援する方を「(公財)日本女性学習財団キャリア支援デザイナー」として養成し、活動を支援しています。このコーナーでは、各地で活動するキャリア支援デザイナーが、キャリア形成や学びのヒントを発信します。



Vol.1 「女性消防吏員」という専門職へのキャリア支援

2018年度より、青森県女性消防吏員研修交流会の企画調整と開催に向けたコーディネーター等を担っている。研修交流会の目的は、日常の問題や将来への不安があっても相談できる相手やロールモデルとなる先輩が身近にほとんどいない現状(女性割合1.8%)に鑑み、県内女性消防吏員が一堂に会し、学び合い、語り合い、交流することでモチベーションアップにつなげ、一人ひとりが自身のキャリアプランについて考える機会とすることである。

県内の女性消防吏員8名とともに「あおり女性活躍推進戦略本部」メンバーとして、現状把握のヒアリング、日本における女性労働者の課題などの勉強会を重ね、研修交流会の企画案を協議し、開催にこぎつけた。

講演テーマは、女性消防吏員が一番不安に感じている「育休取得後の復職」とした。消防の組織は、育休等の制度活用は当たり前で、ほとんどが働き続けたいと考えている。分科会では戦略本部のメンバーがファシリテーターを担当、そのための事前学習として「ファシリテーション講座」も実施した。

講演には各消防本部から総務や人事担当者にも参加してもらうことを提案。女性消防吏員が学び、モチベーションが上がっても、階級社会の消防の中で、管理職以外の女性たちから提案することは難しいと判断したからである。研修交流会には託児の設置も提案し、女性たちにも託児の活用の意義を説明した。

このように、20数年間取り組んできた「男女共同参画」の知識等を活かし、キャリア支援デザイナーとして、女性消防吏員の気づきの場とバックアップの役割を果たし、女性消防吏員の方々からも「世界が広がった」という声を聞くことができた。



研修交流会の様子

おさない せきこ (第5期、青森県) (一社)男女共同参画地域 みらいねっと代表理事

背中を押したもの 「今日はお子さんを預けてこの講座に参加している方もいるかと思いますが、それは素晴らしいことです!」(25年前に受講した「女性リーダー養成研修」での講師の一言)



きょうのキーワード ジェンダー主流化 (Gender Mainstreaming)

政策決定過程やあらゆるレベルの政策及びシステムをジェンダー平等にするための政策理念。第4回国連世界女性会議(北京会議)の北京宣言でジェンダー主流化の概念が明記されたことをきっかけに広まりをみせた。1997年の国連経済社会理事会(ECOSOC)は、ジェンダー主流化を「あらゆる領域と段階において、立法、政策、プログラムを含むすべての行動計画の男性と女性に対する影響を評価するプロセス」「女性と男性が等しく利益を受

け、不平等が持続しないように、男性のみならず女性の関心と経験を政治的、経済的、社会的な全領域において、計画、実行、監視、評価をするための戦略」「究極の目標は、ジェンダー平等の達成」と定義している。ジェンダー主流化政策を進めるために、国連は「ナショナル・マシーナリー」の設置・充実・強化を提唱。日本では内閣府男女共同参画局を中心に取り組まれている。現代社会においては、多様性や交差性にも目を向ける必要が出てきている。